



徳川氏書物始末記

宮内省本

書目録
元治塔前御書目録



11
1863



元治御書籍目録

増補
始末記

御文庫ノ設ハ

東照大君駿府御在城ノ時ニ始マル林道春信勝ソノ管

錦ヲ掌トルコト載テソノ年譜ニ見ユ慶長十九

年七月駿府ヨリ

台徳大君ニ御書籍三十部ヲ賜フコノ時ニ道春ト與安

法印宗哲ト連署ノ書アリ江戸ヨリモ永喜ト閑

齋法印ト人答簡アリ是ヲモテ考フレハ與安法

印モマ夕道春ト共ニ典籍ヲ司トリニナルヘシ

東照大當時江戸御文庫ノコト今詳ニシカクニ永喜初

齋道春ノ東ニシテ江城ニ奉仕ス與安名ハ宗哲

醫ヲモテ駿府ニ奉仕ス閑齋ノ履歴詳ナラス

抑慶長元和ノ間四方多事ノ日ニ當リテ廣ク典

昭和十五年三月一日寄
市島謙吉氏贈



籍ヲ蒐メ駿府官庫ニ蔵メテ誓古右文ノ用ニ備
ハタマフ元和二年

東照大君薨去ノ後道春 遺命ヲ奉シテ義直卿頼宣卿

頼房卿ニ分テ日本ノ舊記オヨヒ布世ノ書ハ江

戸ノ御文庫ニ収メシヨシ信勝カ年譜駿府日記

等ニ載スコレヨリ駿府御文庫ハ遂ニ廢シ又今

御文庫ニ存スル道春ノ御本日記ハコノ時ノ日

録ナルニ明據ナシ寛永十年十二月二十日奥

向勤仕關兵三郎衛門ト改ム御納戸星合猪左衛門

大御番三雲内記西尾加右衛門ヲモテ始メテ御

書物奉行ニ命セラレコソ司籍ノ官ヲ置ル權

興ナリ始メテ奉行ヲ命セラレテ詳ナレハ記也

スモシソノ異常ノ者アレハ持書ス

謹察スルニ猪左衛門等ノ家譜ニ云フ寛永

十三年丙子

仙洞御所ヨリ律令ノ書ヲ求メ給フ松平伊豆守

旨ヲ奉シ十月鏝倉ノ建長寺圓覺寺ノ西堂

オヨヒ緇徒二十餘人ヲ江戸ノ海禪寺ニ招

キ金澤文庫ノ律令ヲ書寫セシメテ林道

春林永喜コレヲ校正ニ猪左衛門等ノ事

ヲ奉行スルヲ十八年庚辰太田備中守

奉シテ諸家ノ系圖ヲ撰フ猪左衛門等ソノ

庫ノ奉行タリト云フ今採録ニテ考據ニ備フ

延寶八年庚申閏八月林春常信篤 旨ヲ奉シ御庫

ニ入りテ御書目ヲ改正ス

謹案スルニ林信篤年譜ニ云フ依

台命入御文庫改正書目携男吉松及ヒ一二門
弟從行訂正書與御書物奉行池田勘兵衛日
日參會而相議ストアリ

元祿六年癸酉十一月始メテ屬吏四人ヲ置カル今
御書物同心ト稱スル者コトニ始マルコト
ノ日コトニ御本丸ヨリ坊主ノ五人來リテ典
籍ヲ出納スルコト後ノ事ヲ序ノテ屬吏ヲ
給セシム

十三年庚辰諸國ニ命アリテ新國繪圖ヲ上ラセ
ム三年ヲ經テ完全スト云フ

寶永三年丙戌七月林大學頭緘封セ
御書櫛モト
十八アリ本月十一日ヨリソノ家ニ送リテコレ
ヲ曝サシム十五日事畢リテ還納ス
謹案スルニ在昔御書櫛ヲ緘封スルニ五等

ノ別アリ老中若年寄林大學頭御小納戸才
ヨヒ奉行等ナリ特ニ大學頭ノ封函ハソノ
第三送りテ涼曝アリ云フコト
コト停ミテマ夕官庫ニテ曝書スル事トナ

六年己丑十月十九日西丸御書物奉行淺井半右衛
門ノチ請フテ平井五右衛門二人命アリテ
御本丸ノ同僚ニ入ル其屬吏四人亦從フ

謹案スルニコノ二人櫻田郎ノ時ヨリ
文昭大君ニ奉仕セ西丸ニ徙ラセタマフ後一時西
丸御書物奉行トナリシモノナルヘシ

七年庚寅六月紅葉山
御宮修繕ノ時御文庫ヲ舊貫ヨリ狹メテ改メ造

ヲルノチ東御文庫ト稱スルモノコレナリ

謹案スルニコレヨリサキ江戸御文庫ノ語

アリテソノ所在ヲ詳ニセスコノ條ニヨリ

テ考フレハコノ地ニ置ル、丁ノ久ニキコ

ト知ルヘシ然レモ創建ノ年月今據ルトコ

口ナレ

正徳元年辛卯新ニ一庫ヲ造ラルコ、ニオイト東

西御文庫ノ稱アリ稱スルニコレナリト

三年癸巳五月四日更ニ一庫ヲ造構セラレ新御庫

ト稱ス

十九日櫻田邸ノ典籍ヲ御文庫へ轉搬アリ曝書

自 御本凡ヨリ御小性一人來リテ監視ニ事訖

レハ御書目ヲ返納スナイヘリ

櫻田邸ヨリ移サル、ノ書籍曝書ノ事ヲ奉行

(大十二)

等司トルハキヨミ去年ソノ命アリソノ後御莊
監視ノ事止ミテ曝書ハナホ舊ニ依ル

五年癸未七月二十八日屬吏ノ員少キニヨリ更ニ

八人ヲ増給セラレ

享保元年丙申六月二日御文庫御書籍目錄

御覽ニ備フヘキノ命アリ嘗テ林大學頭カ改

正セシ目錄八冊ヲ呈上セリ

七日

文昭大君櫻田邸并ヒニ御小納戸ヨリ移サル、所ノ典

籍志ノ目錄ヲナシテ呈スハキノ命アリ松田金

兵衛撰定ニテ上ル以下有司七名ヲ書スル林大

カナラズ職ヲ奉行等ハ直ニ詳ナラサルモノ職掌

テ列セズ九ノ稱ニ復タス姓式ヲ著サス

九月十六日御文庫中ノ二十一史ヲ天文方洪川

宮内省

右門へ賜ル

二年丁酉四月十日櫻田郎ノ空庫今ヨリ後々御殿

奉行ニ属スヘキヨシ若年寄森川出羽守達ノ

御書籍悉ク御庫ニ移サレシ時村上能登守ノ

御殿奉行ニ授ク

三年戊戌正月十七日近來奉行急劇ノ御用亦ホキ

ヲモテ

御成ノ時通御ノ間ヲ往來スヘキヨシ御側加納

遠江守コレヲ達ス議スレヨリサキ御側ノ官事ヲ

命アリ命アリ

六月二十五日以来御成ノ日ヲ避ルニオヨハ

ス曝書スヘキノ命アリ

四年己亥十一月御庫ノ愚管抄ヲ

月光院殿へ贈ラセラル此ノ本モト

禁裏ヨリ賜ハルトコロナルヲモテ後々御庫人返シ

納メラル

五年庚子三月十五日御書目改正ノ了起ル林七三

郎オヨヒ林百助門人等ヲ奉ヒテ御文庫ニ來リ

奉行ト相ヒ議スヘキヨシ御側有馬兵庫頭コレ

ヲ達スコレヨリ七三郎等御庫ニ入りテ典籍ヲ

檢閲シソノ事ヲ議ス

九月朔日新定御書目七冊ヲ呈ス

十月二十七日新目ヲ御書籍ニ照ラシテ校正ス

ベキヨシヲ七三郎オヨヒ奉行等ニ命アリカ

シ新目校完ノ、予舊目ハ焚棄スヘシトナリ

六年辛丑七月二十六日七三郎門人二人御庫ニ入

リテ経解ヲ校正ス
七年壬寅二月八日御用ノ事有リテ典籍ヲ與ヘ進
呈シ御庫ヘ還ラサルコト三十日ニ至ラハソノ
事ヲ記シテ御側ヘ達スヘキヨシ若年寄大久保
長門守達ス

九日御小納戸ノ御書目増補ノ命アリ半右衛
門オヨヒ堆橋主計校正シテ七三郎ヘ示ス十日
七三郎増補シテ奉行ヲモテ兵庫頭ニ呈ス
十九日新修ノ御書目一部ヲ林大學頭カ家ニモ
備ヘ置クヘキヨシ兵庫頭達スノチ大學頭膳寫
畢リテ御庫ニ返納ス

四月三日今ヨリノチ諸家ノ進献ノ御書籍ハ大
學頭ヘ問訊シソノ指揮ヲマチテ進呈スヘキノ

命アリ

九日松平加賀守進献ノ書長崎來舶ノ書御庫ヘ
收貯アリ御書目増補ノコトヲ請フ
今年経解一部

禁裏ヘ進献アリ月日詳ナラス

八年癸卯正月十四日諸家進献スルトコロノ御書
籍卷冊ノ数詳ニ校正シテ進呈スヘキノ命
アリヨリテ七三郎ト共ニ御庫ニオイト校正同
月二十三日進呈ス
五月中御書目改正ノ議フタヒ起ル半右衛門
等撰定ノ事例ヲ考ヘテ上ル直ニ新修スヘキ
旨御小性土岐左兵衛佐達ス半右衛門等舊ヨリ
林七三郎ヘ改修ヲ命セラレ奉行等補助セン

コトヲ請フトイヘトモ允サレテ皆ソノカラウツ
クシテナホ及ハサルコトアラハ七三郎等へ相
ヒ議スヘキヨシ命セラル
二十七日改修ノ御書目繕寫ハ林大學頭へ命
セラレヘシ分目等ハ半右衛門等カ考索ニ任ス
ヘキヨシ左兵衛佐 命ヲ傳フコトニオイテ大
學頭百助オヨヒソノ門人一兩人マタ毎日御庫
ニ入ル
十一月十日稿本ヲモテ 呈ス重テ再訂ノ 命
アリ
二十二日與御右筆下田幸太夫奉行ニ 命セラル
國學ノ事ニ関ルヲモテ月俸ノ外別ニ毎年金五
十兩ヲ給フ

十二月十七日再訂ノ目錄ヲ進 呈ス
九年甲辰正月二十日幸太夫顧問ニ備フルタメニ
御庫ノ典籍ヲ隨意ニ鈔録スヘキヨシヲ 命セ
ラル
三月二十七日幸太夫御庫ノ類聚三代格ヲ京師
ノ祠官羽倉齋官ヘオクリテ考定セシム蓋シ
上意ニ出ルトコロナリ
四月二十六日重修ノ御目錄部分混雜ニテ檢閲
ニ便ナラス大學頭ト議ニテ甄定スヘキノ 命
アリ
閏四月五日和書ノ御目錄ハ別冊ニナスヘキヨ
シヲ 命セラル
七月二十八日御書目改定ノ事專ラ奉行等ノ議

定ニ任スヘキノ命アリ

九月十七日御同朋格成島道筑へ十三經ヲ借サ

ルヘキノ命アリオホヨリ書ヲ借サレハ三例

至ルハミナ略ス若シ常ニ異ナル者ハ特書ス

十一年丙午三月幸大夫御庫火防ノコトヲ若年寄

大久保佐渡守へ面陳ス

十二年丁未十月二十六日モト日光山

御参詣ノ時奉行國史ヲ齎シテ供奉セリ以來國

史ヲ輟メテ地圖ヲ齎スニシカサルヨシヲ進言ス

十一月十五日道筑ニ借ストコロノ典籍今ヨリ

ノテ毎時御側ニ達スルヲマタス出納ソノ請ヒ

ニ任スヘキノ命アリ

十二月十四日御書目七冊ノウチ御當家類一冊

(六十二)

和書類一冊卒業繕寫シテ御呈ス

十三年戊申正月二十七日松村左兵衛日光山

御参詣陪從ノ命アリ銀五十枚ヲ賜フ屬吏ニ

賜ア二月二日御書籍籍副本数部アルモノハ二部

ヲ存シ古寫本古譯本別本等ハ数部重複ストイ

ヘトモナホ貯フヘキノヨシ左兵衛佐命ヲ傳フ

八月二十四日若年寄水野壹政守和濟局方ヲ授

ケコレヲ駿府へ轉送スヘキノヨシ達ス二十六日

奉行ヨリ御目付松前隼人へ授ク

九月十三日重複本查勘ホリ九例オヨヒ月録

ヲ作りテ左兵衛佐へ達ス

十九日醫書五部今大路道三細川桃菴望月三英

へ借サルノ命アリ

宮内省

二十九日文献通考正續トモニ

禁裏へ進獻ノ命アリ闕本ハ大學頭足ニ成スヘキヨ

シテ命セサル

十一月十三日文献通考再三校正スヘキヨシ大

學頭ヲラヒニ奉行ニ命セラル

十四年己酉正月晦日御留守居與カ細井次郎大夫

御文庫ニ出入ニ御書籍ヲ借サルヘキ命アリ

五月十八日大學頭カ補正スル文献通考ヲ御庫

ニ收メラル

十六年辛亥九月二日重複本ノウチ右衛門督殿小

五郎殿ニ賜フノ餘ハ青賞ニ下スヘキヨシ若年寄

本多伊豫守達ス十二月賜書ヲ兩郎ニ送リソノ

十七年壬子五月二日大御眷酒井紀伊守組淺井左

(六十二)

衛門員外ニ奉行ニ命セラル

十月十一日御書籍十種カサ子テ删除スヘキ

命アリ青ノ歳十二月ソノ

十一月二日諸家ノ進本モ重複セルハ删除スヘ

キヨシ命アリ

十八年癸丑四月二日御書目改正ナル正副ニ部下

ニモニ左兵衛佐ハ達ス四月二十九日ソノ囑ニヨ

リテマタ伊豫守ニ呈ス伊豫守ヨリ兵庫頭ニ附

シテ進覽ス體裁旨ニ叶ヘリトナリ

六月二十二日命アリテ

御年譜五部ノウチ林大學頭献本ヲ存シテ餘

ノ三部ヲ火ニ投スヘキヨシ左兵衛佐達セリテ

校勘オハリテ御座所石

宮内省

七月朔日 命アリテ大學頭カ家ニモ御書目一
部ヲオクヘモトナリ大學頭膳寫
十一月十日御書目繕寫ノ賞トシテ屬吏十三人ニ
金ヲ賜フ差アリ

十九年甲寅十二月二十日今日ヨリノテ毎日一人詰
番スヘキヨシ伊豫守コレヲ達ス
二十年乙卯正月十日御書目ニ闕本ヲ記スルノハ
シメテ問ハシメタマウ年月詳ナラサルヲモテ
奉答ス

十四日明月記闕本水府藏書ヲモテ補正ス
ノ命アリ水府儒臣ニ命アリテ桂山三郎左衛門
呈ス
六月十四日享保七年以来諸家献書ノ内類聚國

大御大史日本後紀弘安禮節等偽撰ノ議サダマリシ書

小火中スヘキコトヲ左兵衛佐ヘ白ス

元文元年丙辰三月二十八日類聚國史校定ノ命

アリ六月五日園大曆日本後紀纂校正ノ命アリ

水府ナラヒニ林大學頭十九日類聚國史校正

歲書ヲ以テ校正スニ加ヘテ進呈ス偽撰ナリテ重復

ニ屬スルモノニ十五冊又林大學頭家藏ノ類聚

國史屬吏ヲシテ影寫セシムヘキノ命アリ

九月十一日御小納戸大島近江守命ヲ傳ヘテ

小笠原氏部カ献スルトコロノ御判物等五種ヲ

火中ス去年奉行等カ日スルト二十三日時ステ

ニ短卷ニ迫リカツ御庫ウチ寒氣ニ堪ヘ難キニ
ヨリ私宅校書ヲコトヲ請フソノ請ヒテ允サル

十二月十三日迹部宮内献上ノ國史一冊以來參
考ニ備ヘテ可ナラレトテ進言ス
二十五日属夷小澤又四郎御書籍教種繕寫ノ賞
トシテ金ヲ賜フ

二年丁巳三月十四日御書目増補ノ事アリ
七月五日御庫ニ收ルルトスロテ諸國城郭木様
火ニ附スヘキヨシ左兵衛佐命ヲ傳フ

三年戊午五月十九日日次記ヲ影寫シテ二條家ニ
賜フノ命アリコノ家ノ藏書先ニ羅ルルニテ更ニ
命アリテ桂山三郎左衛門深見新兵衛私宅ニ才
イテ

御前ノ書ト校訂シ
影寫シテ進呈ス
九月十二日

文昭大臣 御手澤本新ニ別函ヲ設テ收ムヘキノ命

アリ

二十四日御當家類ノ目錄ナリテ上ル

十二月十四日属夷小澤又四郎ツ子ニ奉行等ノ

校書ニ左右シカワ影寫ノ勞アルヲモツテソノ

賞トシテ毎歳金五兩ヲ賜フノ命アリ

四年己未十二月十八日日次記校正ノ勞ヲ賞セラ

シ桂山三郎左衛門深見新兵衛ニ才ノ金三枚

ヲ賜フ

五年庚申四月六日京師ノ伶官豊伴賀守藏本字中

要録影寫ノ命アリ

寛保元年辛酉十一月二十四日 御家ノ記録モ二

大部以上ノ者ハ除キ去ルヘキヨシ左兵衛佐命

ヲ傳フ

十二月二十日

東昭大君御位記口宣ノ寫御庫ニ收ムヘキヨシ老中松
平左近將監コレヲ達ス若年寄板倉佐渡守侍座
セリ紅葉山ヨリサキ桂山三郎左衛門ニ命セラレ
二年壬戌七月二十日武徳大成記編輯疎脱ナルニ
ヨリ改訂スヘキノ旨大學頭百助オヨヒ三郎左
衛門ニ命セラレノチ更ニ三郎左衛門ニ命
アリテ改訂中ハ上直ヲエルサレ典籍ハ同僚ニ
告テ私宅ニ携スルコトヲ許サルノチ功オハリテ
上ルニ及ヒテマタ再訂ノ命アリカワ居宅遠
處ニモテ事ニ便ナラサルヲモテ再訂卒業ノ間
ハ林大學頭カ宅中ニ僦居スヘシトナリ金ヲ賜
フテ移居ノ費ヲ資ケラル

延享元年甲子四月十八日 命アリテ新兵衛吹上

ノ御庭ニオイテ日晷ヲ測量ス

十月六日甘蔗廢物類纂中ニ載スルノ外府州縣

志オヨヒ他書ニ得ルトコロヲ抄シ 呈スヘキ

ヨシヲ命セラル

二年乙丑九月二十七日 御讓職後西丸 御移後

ニツキ御小納戸ノ書十函ヲ御庫ニ移サル

閏十二月十二日新兵衛教年長崎書籍ノコトニ

勞スルニヨリソノ賞トシテ西丸ニオイテ金三

枚ヲ賜フ

三年丙寅十二月二十六日奉行等西丸御用多ヲモ

テオノオノ金一枚ヲ賜フ屬克ノ賜

今ヨリノチ御條目御法令三四年ニ一度曝書ス

へキヨシ老中本多中務太輔ヨシヲ違ス是ヲ
御黒書院ニテ曝書シ老中緘封スル故事トナレリ
四年丁卯十二月二十四日来船ノ玉海等九種ノ書
ヲ御庫ニ收ム長崎奉行ニ命テ新共衛ノ建言ニヨリテ
是年御庫防火ノ了ヲ佐渡守ニ進言ス小普請方
ヨリ十人ノ夫役ヲ遣ハレテ防禦スへキニ定メ
ラル

寛延二年己巳五月伊豫守 命ヲ傳ヘテ寛文貞享
正徳ノ御朱印副本ヲ平川口御櫓ニ移ス近年新
多ク御庫ニ充扱セラルモテ
請フトコロヲ充セラル
寶曆元年辛未六月二十六日西丸御小納戸ヨリ典
籍ヲ御庫ニ移ス
閏六月六日先ニ御小納戸ヨリ移サレノ典籍ヲ
(六十二)

御書目ニ列セシヲ進自ス
二年壬申五月二十四日典籍ノ奥へ進呈スルモノ
三十日ヲ經ハ還サレシヲ御側へ請フコシ享
保ノ故事ニ倣フ所ナリ同月二十八日故事ニ從
フへキヨシ御側田沼主殿頭コレヲ違ス
十二月二十五日十三經注疏二十一史萬姓統譜
石刻蘭亭記ヲ西丸へ賜ハルヨシ主殿頭コレヲ
違ス
三年癸酉九月延喜儀式弘安格式ヲ
禁裏へ進献セラルコ收メテ各種ノ書ヲ新寫シ御庫
ニ納メテソノ書ヲオキナハル
五年乙亥八月二十三日天文方西川忠次郎滋川圖
書上京スルニヨリ借サル、トコロノ典籍御庫
へ返納スカツ今ヨリノ典籍ハ滋川圖書一人へ

借サレハキノ命アリ

十年庚辰十二月二十四日船齋ノ温公通鑑ヲ御庫

へ收ム側御用人大岡キコノ書收命ヲ長崎奉行ニ

傳ハテ船齋ノコトヲ達

十一年辛巳四月十二日欽定四經左傳等九種ヲ御

庫ニ收ム去年考ス等ノ書御庫命セラルル新兵衛

考ヲ書ニテ進呈

十二年壬午七月五日林木ノ御庫ヲ蔽フモノヲ剪

伐スコレ毎夏洗水スルノ始メ也

明和元年甲申二月十四日圖書集成御庫へ收ムへ

キヨシ主殿頭コレヲ達ス朝實録オヨヒコノ書

ラ收ルルハキヤ查考ノ事ヲ徳カ藤八郎ニ命セ

ヲ賞セラタ賜アリ興ルノ

三年丙戌七月二十三日御書目改正セレコトヲ徳

力藤八郎主殿頭へ進言ス

二十八日淡川圖書へ借サル、典籍ヲマタ佐采

文次郎へ轉借セラレハキノ命アリ

九月十八日御勘定格與詰成島忠八郎官事ニヨ

リ御庫ニ出入シテ典籍ヲ披閱スハキヨシ御側

水野豊後守命ヲ傳フ

四年丁亥二月十一日享保延享中ノ御朱印副本ヲ

例ニヨリテ平川口渡御櫓へ轉置ス

五年戌子九月二十日御書目改正功成ルニ通テ繕

寫シテ御側御用人田沼主殿頭へ呈ス一部ハ

御前ニ留ラレ一部ハ御庫ニ收メラル

十一月三日御書目改正ノ勞ヲ賞セラレ奉行等

宮内省

宮内省

(六十二)

オノオノ銀五枚ヲ賜フ屬吏ノコノ事ニ與ル六
年己丑九月二日右衛門督殿へ御庫ノ樂書ヲ備

サル、ヨシ御側箱葉越中守コレヲ達ス
七年庚寅五月六日今度日光山

御參詣アルニヨリ藤八郎陪從ノ命アリ
八年辛卯二月十二日新収ノ典籍御書目へ増補セ

シコトヲ進言ス
御前ノ御目錄ヲ下ケラル

安永元年壬辰三月三十日夕、七御庫防火ノ事
ヲ若年寄水野出羽守ニ進言ス延享中ステニコ

ニ時ハ普請方ノ人夫十人ヲ防火ニ備ヘラレ事アリ
ニソノ事ニ事ハヒトナリ然ルニ事アリ
ニ十九日無事ニ火災ニ一ノ命ヲ至ル者ナシヨリテ
ニ夕、ヒ進言ヲ請フニ命ヲ嚴

十月二十日御庫修理ニヨリテ假リニ典籍ヲ埋

御多門ニ移ス後修理ナリテ初メニ復ス

五年丙申正月二十七日藤八郎日光山へ陪從スル

ニヨリ銀五十枚ヲ賜フ屬吏ニ人スナハテ日光

山へ齋ラス國繪圖ヲ修補ス

七月二十四日御納戸ヨリ收ムル御書函ハ御納

戸同心御庫ニ出入シテ出納スヘキニ定メラル

八年己亥七月十三日サラニ地圖修造ノ命アリ

御書物師出雲寺和泉ヲシテ装續セシム

天明元年辛丑六月二十五日寫本犀書治要ヲ尾藩

へ借サレ八月十日返納アリ

二年壬寅二月二十五日小十人格與詰成嶋仙藏以

來御庫ニ出入シテ御書籍ヲ披閱スヘキヨシヲ

石見守達ス

三年癸卯六月七日御細工所ヨリ圖書集成ノ木帙

ハテ御蔵ニ致ス去_レ年九月コノ青_レ帙_レ蠹_レ敗スルニ
更_レテテ進_レ言_レシテ防_レカ_レコ_レト_レテ議ス

七月六日木帙表題書寫ノコト御小納戸岡部河

内守奉行等ト議シテ進言スノテ言フトコロヲ
可セラル

十二月十二日野尻助四郎問官三郎右衛門圖書

集成木帙ノ事ニ勞スルモテ銀五枚ヲ賜フ屬表

題_レ青_レスル

五年乙巳十月四日典籍ノ蠹蝕ヲ修補セ_レコトヲ

稻葉越前守越_レ中_レ守_レト_レテ進言スノテ言フト

コロヲ可セラル

七年丁未九月二十二日御法令ノ書函ヲ老中牧野

備後守へ呈ス同日新令ヲ加ヘテ備後守封緘シ

御庫ニ收ム

寛政元年己酉五月六日地圖修造ノコトヲ若年寄

京極備中守へ進言ス六月二十九日言フトコロ

ヲ可セラル八月二十九日切畢

十二月二十三日御庫夏月トイヘトモ防火ノ備

ヘアルヘキヨシ備前守小普請奉行ニ達セリト

云ノ

二年庚戌六月十一日今度御朱印ノ副本收貯ノ

命アリヨリテ寶曆中ノ御朱印ヲ平川口渡御多

門へ移サシコトヲ若年寄青山大膳亮へ言ス十

八日ソノ請ヒヲ許サル

十一月十六日典籍修理ノコトヲ若年寄堀田振
津守へ進言スノテ属吏ヲシテ修理セシムヘキ
命アリテ實録中ノ御書籍小目録ヲ編
三年辛亥二月八日荻生少三郎御書籍小目録ヲ編
修セシ事ヲ備前守へ進言ス

五月九日典籍修理ナル老中松平越中守一覽ス
九月二十三日典籍修理ノ賞トシテ野尻助四郎
松平加賀右衛門ニオノオノ銀五枚ヲ賜フ属吏ノ
賞賜アリ是シヨリノ典籍修理ノコト毎年属
吏ニ命スヘキヨシ撰津守達ス

四年壬子五月二十五日コレマテ新御庫ト程セシ
モノ紅葉山ノ樹陰ニテ濕氣多キニヨリ奉行等
建言シテ中央ノ御庫ニ換ヘタリ今ノ御庫ト
程スル是ナリ

三十日奥ニテ御書籍ノ出納以來御小性ノ與
コトナレリ修理等ノコトニ至リテハ舊ノコ
トク御小納戸ツカサトルノヨシ御小納戸龜井
駿河守達ス

十一月十二日御書籍修理ノ事アリ装纏スル属
吏四人ニオノオノ金ヲ賜フ
五年癸丑五月二日以來属吏ニハ讀書及書教等ニ
志アル者ヲ命セラルヘキヨシ攝津守達ス

七月十一日御朱印副本平川口渡御多門ヨリ百
人組番所後二重御櫓へ轉置ス
九月二十二日コノ年御書籍ヲ修繕セシ属吏四
人ニ金ヲ賜フ
二十七日御書籍目録ヲ林熊蔵ニ借サルヘキノ

命アリ御書目ヲ老中松平伊豆守へ呈ス
謹案スルニ古來唐舶ノ長崎ニ到ルコトニ
ソノ書目ヲ林大學頭ニ附テ御庫ノ有無
ヲ查考セシメテ國家ノ用ニ備フソノ事ナ
カコロヤム今ソノ故事ニ復シ年年舶來ノ
書ハ御庫ノ有無ヲ照シ用不用ヲ判ミテカ
ナラスソノ家ノ進言スルコトナレリ
十二月八日小目錄ナリテ呈ス伊豆守等モ一覽
シテソノ簡便ヲ程セリ部ニ編修セラル生小三
ヲ賞セラル屬
吏ヲ夕賜アリ
六年甲寅六月五日修補アリニ典籍ヲ御目付中川
勘三郎檢視セリ
十月二十三日御書籍ヲ修補セシ屬吏三人ニ金

ヲ賜フ
七年乙卯三月二日御書籍保全ノ事ハ任職ノ新舊
ニ拘ラス心ヲ盡スヘキヨシヲ撰津守達ス
十四日去壬子歳以來御書籍オヨヒ書棚等修理
セシ屬吏二人ニ金ヲ賜フ
五月朔日成島忠八郎成島仙蔵ニハシハ御庫ヲ
檢視スヘキ旨ヲ加納遠江守傳フト云フ
六月五日大御眷格眞詰成島仙蔵ヲ奉行ニ命
セラル與詰舊ノ如シ
八月十二日御右筆所ヨリ收貯セシ書函二九御
多門へ轉置ス
八年丙辰正月十八日日光山
御参詣諸事ノ簿録オヨヒ寛明事跡録御用部屋

置カルヘシトナリ

二十八日天文方吉田鞞負等曆象考成後編ヲ土

後門家ニ借サレ事ヲ請フニヨリソノ書ヲ御用

部屋ニ致ス修理大月四月コノ書ヲ土御門

二月十九日地圖ノ蠹敗ヲ總計シテ進言スハキ

ヨシ老中格本多弾正大弼仙蔵ヘ達ス

三月十八日毎年四時ヲワカタス曝書セシコト

ヲ撰津守ヘ建言ス

二十八日舊本諸國地圖等修補スハキヨシ撰津

守コレヲ達ス

四月三日御書籍ノ蠹敗ヲ修補スハキヨシ撰津

守達スコト問ハル九一萬八千冊ト對ハ八年餘ニ

シテ修補竟ルハ

十二月十六日地圖修補中年ノ屬吏ニ金ヲ賜ハ

ルノ命アリ屬吏三十三兩餘ヲ賜フ其勤勞ノ差

奉行等カ請フトコトナリトナリ

十二月二十三日與ヘ呈上セシ御書籍久シク

御文庫ヘ下ラサルハ歳抄毎ニソノ書名ヲ記シ

テ言ス例ナリシカ今年ヨリ後ソノ事ニ及ハサ

ルヨシ遠江守達ス

九年丁巳三月二十九日命アリ小目錄ヲ繕寫シ

テ呈スノ千野田彦之進カコノ事ヲ司トルヲモ

テ銀ヲ賞賜セラレ屬吏八人マ

七月五日地圖修理ノ勞ヲ賞セラレテオノオノ銀

ヲ賜フ屬吏九人ニ金

十年戊午十月六日慶長中

東照大君ヨリ

台徳大君へ御譲リノ御書籍三十部ヲ査檢スヘキヨシ

撰津守達ス同月十一日仙蔵三十部ノ御書籍有

無異同等ヲ録シ本書ニソヘテ撰津守ヘ呈ス

十一月六日石刻十二經敗腐錯亂セシヲ仙蔵建

言シテ校正シマク裝飾ヲ加フ

十一年己未十二月十九日仙蔵請フトコロニヨリ

御書物師出雲寺要人ニ御書籍百冊ノ裱背ヲ

命セラルコシ数年ノ廢絶ヲ継クモナリ

十二年庚申四月元繁後漢書ノ裱背ニ足利將軍義

政卿義尚卿ノ墨跡アルヲモテ別ニ卷軸ニ製セ

シコトヲ撰津守ニ言ス言フトコロヲ可セラル

享和元年辛酉三月二十七日御鐵炮方井上左大夫

ノ請ヒニヨリ軍器圖説ヲ撰津守ヘ呈ス

八月九日西丸與儒者柴野彦助ニ明寶録闕卷ヲ

補寫セシメラルニヨリテ全部ヲ伊豆守ヘ呈ス

二年壬戌四月二十八日御書目改正ノ命アリ體

例等林大學頭ニ議スヘキヨシ撰津守達セリ五

月二日ヨリ局ヲ開クマク大御番格與詰成島邦

之助御書目改正ノ事ニ預ルヘキヨシ撰津守達

スヨリテ邦之助門目オヨヒ體例ヲ大學頭ニ問

議シコレヨリ日御庫ニ出入ス御用部屋ニ置

ハ邦之助檢閱シ天文方ニ指サレ御書目ヲ草

奉行等轉視シテ校正刪補ス

十二月十九日御書籍一萬八千冊餘修繕功成ルニ

ヨリテソノ賞トシテ事ニ與ル者ニ十金銀ヲ賜

フ差アリ

二十八日眞ノ御書籍二十二部ヲ御庫ヘ收メテ

三年癸亥正月二十八日御庫中ノ十五有通志ヲ昌

平坂學問所ニ收メテ、命アリテ學問所

ニ轉送ス

九月十六日大學頭邦之助ニ議ニテ御書籍ノ未

歷才ヨヒ御庫始末ノコトヲ記ニ御書目ノ未

列セシメトテ撰津守ニ進言ス

文化元年甲子四月九日新收古寫本禮記注疏蠹食

アルヲ以テ裱背修理セシメトテ撰津守ヘ進言

スノ旨言フトコロヲ可セラレ

十五日御書物師出雲寺要人カ装綴スルトコロ

(六十二)

慶長開見録ヲ撰津守ヘ呈ス

二十七日新訂御書目ノ體式ヲ撰津守ヘ呈ス

二年乙丑十二月四日新訂御書目十ニ繕寫四通功

畢リテ撰津守ヘ進呈ス一通ハ

御前ニ留メラレニ通ハ御庫ニ置シ一通ハ林大

學頭ニ授ケラル門コリヨリサキ奉行河田安右衛

モテ新訂御書目一通ヲ繕寫セシメテ呈スルヲ

撰津守ヘ言フコトヲ九セラル

二十三日新訂御書目副本一部ヲ御次ニ置ルヘ

キノ旨アリ其副本ヲ御小性神尾豐後守ニ授

クコノ事ニ與ル者ノ旨皆賜アリ

三年丙寅三月四日醫學館回祿ノ災ニ罹ル醫官多

紀安長ニ借サル、廢物類纂七帙皆燬スト云フ

五年戊辰四月二十七日新收、無版書乾隆四庫全

宮内省

書無版本ト題ニ並ニ小目ヲ掲記ニ檢閱ニ便ナ
ラレトテ撰津守ハ進言ニ二十八日言ストコロ
ニテ允ルサレ
六月朔日大學頭進言スリノ家ニ置ル、ノ書目
モ御庫ノ書目ト同シク毎歳ノ新收ヲ續書セ
トナリコレヨリ年年新收ノ書目ヲ記シテ大學
頭ニ致ス
七月十一日属吏江西文藏無版本標題並ニ小目
ヲ書スルニヨリテ賞賜アリ
八月十四日御貝足奉行福島傳兵衛ハ兵部太
陰經ノ二書ヲ借サレ
十一月二日成島邦之助容臺文集與御本御文庫
本トモニ脱落多キヲモテ補寫スヘキノ命ア

(大十二)

リト云フ
七年庚午三月九日和學講談所搗檢校保己一大學
頭ノ私宅ニオイト爲政録ヲ一聽セシテテ請フ
ニヨリテソノ書ヲ大學頭ハ借サル
十年癸酉七月二日新御庫修理ノ事アリモト此御
庫半ハ御納戸庫タリ今度西庫ノ半ヲ分テ是
レニ換ヘ貴重ノ書ヲ置カシコトヲ進言スソノ
言フトコロヲ允サル
十一年甲戌八月十五日京極周防守カキニ備前御
書目校正ノ事ヲ諭セラレコレ重訂ノ擧アル始
メ也
二十日御書目重訂ノ顛末ヲ箋ニ記シテ周防守
ハ言ス

宮内省

九月十三日御書籍題辨十ラヒニ部類ノ允當ナ
ラサルハ校正ニナホ林大學頭ト議スヘキ旨周
防守達セリ是レヨリシハシハ大學頭ト會議シテ
論定スルコトノ時屬吏ノ事ニ習フ者ヲ撰ヒテ從事
トコロヲ可シメランコトヲ周防守ノ旨直煩勞ナ
ニ因リテ餼粟ヲ給フ更ニ從事ノ者日直煩勞ナ
コトヲ言スソノ半ヲ賜ハル
十二年乙亥六月二十九日醫官杉本忠温多紀安長
等カ請ヒニヨリテ幼幼新書醫學集成二書ヲ醫
學館ニ借サレ

十三年丙子七月八日

御前本駿府御文庫本等貴重各種ノ目錄ヲ周防
守ニ示スマタ詩經圖新井筑後守進講ノ日也
ヒ金澤本法曹類林等軸子モシクハ帖本トナシ

ハ可ナラシムコトヲ若年寄植村駿河守ニ白スソ
ノ請ヒヲ可セラレ
二十五日式部卿殿紀藩ニ入ラレ、ニヨリ四書
五經小學近思錄三大全十三經注疏大學衍義正
補二十一史七編通鑑三大書等副本アルハ査勘
スヘキヨモ老中酒井若狹守達セリ
八月二日先ニ
御前本駿府御文庫本金澤本等ハ分ケテ貴重ア
ルヘキヨモ書目ヲモテ周防守ヘ進言セシニマ
タ來歴ヲ記シテ言スヘキ旨アリ
三日式部卿殿賜書ノ目錄ヲ査考シテ呈ス
晦日貴重ノ來歴ヲ書シテ周防守ニ呈スノ旨
重トナスヘキヨモ命セラレ時ニ慶長拾字
版ノウチ御庫

逸スル者ハ收儲アラシコトヲ言
 十一月二日式部御殿賜書ノウテ大學衍義ハ林
 大學頭所蔵ノ本ヲ献セシメラレソノ餘ハ御庫
 ノ書ヲ賜フニ十一史冊府元龜文苑英華ノ如キ
 副本ナキ者ハ舶来ヲマケテ御庫ニ缺ヲ補ハル
 子周防守達ス
 二十一日是レヨリサキ属吏ヲシテ賜書ヲ修補
 セシム事竣ニテ若狹守周防守檢視シスナハテ
 清水ノ館ニ送ル
 十四年丁丑二月十一日是レヨリサキ比條本東鑑
 慶長活字版駿府本享保新寫本等願末ヲ記シテ
 架ヲ別テ貴重トセンコトヲ請フコトニオイテ
 命アリ東鑑ヲ比條本ト程ニ駿府二十二部ヲ

(六十二)

御讓本ト程ニ享保新寫本ヲ享保新寫校合本ト
 稱シ金澤本宗元繫本慶長活字版ニ十架ヲ別テ
 テ貴重スヘキム子周防守達セリ
 三月五日道遥院寫本史記元繫史記前後漢書韓
 版北史唐書ヲ松平加賀守ニ借サレヨリサ
 庫ノ書ヲモテテ七史ヲ校讐セシコトヲ請フ
 井大炊頭ノ書ヲ下ニテ舊例ヲ問ハルノテ松
 平伊豆守校讐ノ考據トナルハキ書名ヲ
 問ハレシコトアリ並ニ書ヲモテ答フ
 四月十五日
 御前本慶長寫本活字版毎種別函ヲ造ラシコト
 子周防守ニ言スマタ曾テ天文方吉田勇太郎ニ
 借サレシ圖書集成ノウチ乾象庶徵歷法ノ三典
 別ニ一通ヲ抄寫シ原本ハ御庫ニ還納シテ可ナ
 ラシコトヲ言ス

十月四日地理志享保中 旨アリテツトメテ收貯セラル、トコロナリソコト終ニ廢絶ニ及ヘリヨリテ長崎奉行へ 旨ヲ下シ今ヨリテ府州縣志舶来毎ニ書目ヲモテ大學頭へ附シソノ書ノ有無ヲ照シ收貯セハ逐年金備ニ至ルヘキコトヲ周防守ニ言ス

十一月十日三御庫ニトニオノオノ水盤ヲ置カシコトヲ駿河守へ請フテコレヲ允セラル

文政元年戊寅五月六日星鳳樓帖響琴齋帖蘇米鴛羣等ノ帖罕遺ノモノニシテ先ニ修補スルトコ口袿装拙劣ナリニヨリテフタ、ヒソノ職ニ命セシコトヲ周防守へ建言スコレヲ允セラレテ御書物師出雲寺源七郎ニ官金ヲ與ヘテ自宅ニ下

五 修補セシム

八月七日御書籍中ノ青帕本及ヒ茅本等ノ陋本ヲ芟除シ正本ノミヲ重訂ノ書目ニ載セシコトヲ周防守へ言ス

九月十一日醫書國書ノ目ヲ醫學館ノ主事杉本忠温多紀安長オヨヒ和學講談所塙保己一ニ下シテ正偽ヲ校勘セシメシコトヲ言ススナハチ允サル、ニ因リテ書目ヲ致シテホ辨ニ難キハ忠温等ニ面説シコレヲ定メシム

二年己卯二月二十一日御書籍ノ收備計ルニ正徳年間四萬餘冊ソノ、予續收ノ書既ニ三萬四千冊ニ至リ舊時ニ比スルニホトシト相ヒ倍シ夷負ハナホ舊ニ依ルヲモテ今奉行ノ缺ヲ補ハ

ス属吏ノ負ヲ増サレシコトヲ近江守ハ進言ス
後ニ請フトコロヲ允セラレテ五人ヲ増給ス
五月十四日今ヨリノチ曝青小暑節ニ始マラレ
ニコトヲ言ス

三年庚辰八月二十一日重訂御書目ニ附録スル始
末記増補ノ爲メ局中ノ舊記ヲ抄録スルノ書手
一員ヲ増サシ事ヲ請フスナハチコトヲ允サル
四年辛巳六月十五日淳化閣法帖年月ノ久キ表背
損壞ス前ニ星鳳樓帖等修理ノ如ク表背修飾ヲ
新ニセシ事ヲ周防守ニ允セララル、ヲモテ御書
物師唐本屋清之函ニ官金ヲ與ヘ自宅ニ下ニテ
修理セシム
五年壬午九月十八日員ノ外ニ属吏二人ヲ増サレ

後來員ノ缺ニ充テラルヘキ云子駿河守書ヲモ
テ違セリ

十一月十七日直七郎殿尾藩ニ入ラル、ノ時齋

シタマフトコロノ書籍ヲ御書物師ヨリ呈セシ

メソノ縹帙ヲ装綴シ若年寄田沼玄蕃頭檢視ニ

奉行ヨリ御細工頭ニ授ク内藤紀伊守達スルト

ナリ

六年癸未二月八日サキニ紀伊宰相殿藩ニ入ラル

ル時賜フトコロノ御書籍御庫ニ副本ナキハ唐

刻ハ舶齋ヲモテソノ缺ヲ補シカ爲メソノ書ヲ

載セ来ルヘキコトヲ長崎奉行等ヘ命セラレ

ヘキコトヲ言スソノ言フトコロヲ允セラレ

三月書目校正ニヨリテ諸書ヲ檢閱スルニ慶長

刊版和玉篇

大猷大君 御前ニ置ル、ノ書ニシテ享保中御小性土
政左兵衛佐、證書アリヨリテ今、御手澤本中
ニ置キ架ヲ分タニコトヲ周防守ニ言ス後、旨
ヲ得タリ

五月十四日官版小學ヲ收メラル先ノ賜書ノ闕
ヲ補ハル、トコロナリ

七月八日經解明十二朝實錄ノ二部圖書集成ニ
倣ヒ木帙ヲ作ラシ事ヲ周防守ニ言スソノ言フ
トコロヲ允セラル

七年甲申二月八日未年日光
御參詣ニヨリ齋スヘキ地圖例ニヨリテ修理ヲ
加ハヘシ事ヲ駿河守ニ言ス四月朔日ソノ言ヲ

允セラル

八月十一日櫻田藩邸ノ日記年久シキニヨリ
蠹敗スルモノヲ修理裱褙セシ事ヲ駿河守ニ言
ス言フトコロヲ允セラル

八年乙酉三月二十八日林大學頭成嶋邦之丞急御
用ニヨリ御庫ニ来リ家記類ヲ轉閱ニ奉行等ニ
議シソノ書ヲ携ヘ歸ルソノコトヲ若年寄増山
河内守ニ達ス後、ハシハカク人如シ

台徳大君

御上洛ノ日飛鳥井雅庸ノ鞠道ヲ授ケ奉リシモ
八十リ今校正ニヨリ、御手澤中ニ收メテ架ヲ
別タシコトヲ周防守ニ狀言スソノ狀スルトコ

口ヲ允セラル

九月五日先ニ文化八年對州ニオイテ朝鮮聘禮

來翰本オヨヒ

儲君へ上ル別幅一紙ヲ御庫ニ收メラレ來翰真本ハ收

メラレス古常ニ從ヒ御庫ニ置ルヘキコトヲ周

防守へ言シマタ琉球ノ簡書モ正徳以後ハ收ノ

ラレサル事ヲ言ス

九年丙戌三月二十日天明以後御用部屋等ニ留メ

ハラレテ今御庫ニ目錄ニ存スルハソノ目ヲ刪

ルヘクオヨヒ天文方醫局等ニ借サル、モノハ

寫シ取りテ本書ヲ返納セシメラルヘキヨシヲ

白ス

五月三日貞享版近思錄ヲ收ム前ノ賜本ノ闕ヲ

補ノトコロナリ

十一月二十一日全唐文四十套三百二十本ヲ收

メラル、旨ヲ若年寄林肥後守達スキ奉行等カ

建言セシヨリテ唐商ニ令シテ

十一年戊子六月十八日毛利出雲守進呈ノ書林

大學頭林又三郎檢閱シテ御庫ト學問所トニ分

收セラルヨリテ學問所ヨリ書櫃ヲ輸送ス總計

一萬冊餘ナリコレニヨリテ新ニ一庫ヲ造ラシ

事ヲ肥後守ニ請フ

七月十二日出雲守進本經史子集スヘテ八百八

部一萬四千二百本道藏經全部四千五百五帙收貯

ニ備ハリシ事ヲ上總介周防守ト經スヘ言ス

十九日新訂御書目錄ノ校正既ニ業ヲ卒リ淨書

過半ニ至ルトコロ出雲守進奉收貯ニヨリ御書
目ニ追録シ書ノ可否オヨヒ撰人名氏ヲ考訂セ
シメシ事ヲ林右近ト改テ一人ヲシテモツハラ
司トラシメハ便ナラシ事ヲ上總介ヘ言スノチ
命アリテ右近オヨヒ勝田彌十郎ニ人事ヲ司ト
ルヘシトナリ

八月十五日進本考訂ニヨリ御書目校正ニ與
属吏ノ員二人ヲ増サシ事ヲ上總介ヘ請フテス
ナハテ允セラレ

十八日出雲守進奉ステ一萬冊餘ニ及ヘハコ
レカタメニ造ルノ書篋モマタ夥シ然レハ曩ニ
建言スル陋奉重奉ヲ削除シテ書篋ノ数ヲ減シ
ナカシツク生徒教育ノ用トナルヘキモノハ學

問所ニ送リソノ餘ハ享保寛保ノ例ヲモテ書賈

ニ下サレコトヲ上總介ヘ請フテ可セラレ

二十四日新一庫經營ノ請ヒテ允セラレ、旨

肥後守達セラレ

十二年己丑五月九日毛利出雲守獻奉書目ナリテ

大和守ヘ呈スカツソノ蠹敗アル者ハ修理セシ

コトヲ言ス

天保元年庚寅十二月二十日御庫新ニ成ル

二年辛卯四月十六日四庫ノ稱呼ヲ改メテ一二三

四ト稱スヘキ旨肥後守黒澤正助ヲモテ達セラ

ルコトヨリサキ三庫ヲ東庫西庫新庫ト稱ス今

テ先テコトナリ

十二月二十八日サキニ上總介重本陋本删除ノ
 請ヒラ可セラル今再ヒソノ書目ヲ添ヘテ大和
 守ヘ言スソノ言ストコロヲ允セラル旨田中
 龍之助ヲモテ達セラル後ニ林左近將監御庫ニ
 送リ餘ハ書費ニ下ス
 二十九日毛利出雲守献本目錄訂正ノ賞トシテ
 林式部勝田彌十郎ニオノオノ銀五枚ヲ賜フ屬其ノ
 金一兩ヲ賜フ
 三年壬辰八月十日陋本ノ金ヲモテ御庫中闕卷補
 寫オヨヒ新貯ノ費ヘニ充シコトヲ大和守ニ白
 スソノ言ヲ充セラル旨田中龍之助ヲモテ達
 セラル
 二十日重訂御書目中ハ毛利出雲守献本ノ目ヲ

(大十二)

加ヘシコトヲ言ヒテ可セラル
 十二月二十六日陋本ノ金ヲ假ニ御金藏ヘ收ム
 四年癸巳三月二十三日出雲守献本四千冊餘修理
 ナルコトヲ大和守ヘ白ス
 五月十一日林式部先祖春徳カ撰集ヲ献スルニ
 ヲリテ御右筆部屋縁類ニオイテ時服二領ヲ賜
 六年乙未九月朔日千三郎殿越前家ニ移ラセラル
 ルニヨリテ官板四書同シク五経及ヒ孝経標注
 ノ四部ヲ賜ハルヘキニヨリ御書物師ニ命シ
 テ購求セシメ裝飾ヲ加ヘシメラル
 十二月十九日出雲守献本修補ノストヲ賞セラ
 レ林式部藤田藤四郎ニ各銀七枚ヲ賜フ屬其ノ
 賜ハ差アリ

七年丙申十二月八日重訂御書目成功シテ本篇目
次トモ二十九冊始末記一冊來歴志四冊彙刻目
十八冊アハセテ四十二冊ヲ重訂御書籍目錄ト
題シ五通ヲ進呈ス一通ハ
御前ニ留メラレ一通ハ副本トシ二通ハ御庫ニ
置カレ一通ハ林大學頭ニ授ケラル
二十一日林式部ニ銀十五枚篠田藩四部ニ同シ
ク十枚中山榮太郎ニ同シク七枚ヲ賜フテ重訂
目編輯ノ勞ヲ賞セラル屬吏ノ事ニ與リ者
七人ニ賜金各差アリ
八年丁酉十一月二十日多事ノ勤務怠ラサルニヨ
リ特恩ヲモテ屬吏三人ニオノオノ金五兩ヲ賜フ
十一年庚子二月廿キニ御金藏ニ假リ收メトセシ
陋奉ノ御拂ヒ代金ヲ下ラタメテ奉收トス飯
御

金藏ニ收メテ書籍購求決巻補寫
等ノ費用ニアテシ錢餘ノ金ナリ
十四年癸卯正月二十四日中山榮太郎日光山
御參詣陪從セシメラルヘキニヨリ銀五十枚ヲ
賜フ屬吏二人マタ
賜銀アリ
二月十一日コレヨリサキ當番加番トモニ登
營ニ来リシカ以來加番ハ登官ニ及ハサル旨
若年寄堀田振津守達ス
二十三日奉行ノ建言ニヨリテ御文庫重複ノ御
書籍ヲ昌平坂及ヒ甲府ノ兩學校ニ移サル
三月十一日是ヨリ後屬吏ノウチ世話役ト程ス
ルモノ三人ニ取締ノタメ御手當トシテ御扶持
方ニ口ヲ賜ハルヘキ旨攝津守達ス
同日曝書中ハ上直ノ外奉行一人屬吏四五人日

七コト御庫ニ入りテ疎漏ヲ檢スヘキ旨攝津守達
ス同日御書籍修繕ノコトハ是ヨリサテ屬吏ニ
人ニ定式撰リテ命セラレシカ以降ハ曝書ノ
トキ蠹敗ヲ査檢ニ建言スヘキ旨攝津守達スヨ
リテ定式撰リト稱スルモノハ廢セリ
五月地理志ノウチ府州縣志ヲ享保中旨アリ
テ收貯セシメラレシカ當今ニ至リテイマタ全
備セサルニヨリ長崎奉行ニ命ヲ下シテ船載
セシメ收貯セシムトヲ建言ス
六月八日府州縣志及西庫全書總目ノウチ御文
庫ニ備ヘテ可ナル書ハ收貯セラレヘキニヨリ
査檢ニテ建言スヘキ旨命セラレ
八月奉行ノ建言ニヨリ醫術ニ益アル重複ノ御

(大十二)

書物三十三部ヲ醫學館ニ移サレ又外ニ三部ヲ
昌平坂學問所及ヒ和學講談所ニ移サル
十一月奉行ノ建言ニヨリテ陋本三十三部ヲ書
賈ニ下サシメラルコノ代金ヲモテ書櫃ヲ不足
ヲ補ヒ蠹敗ヲ修補セシメラル
弘化元年甲辰
御本丸炎上ノ時燒失セシ御書物數十部アルヲ
モテ寫本ハ補寫シ刊本ハ書賈ニ購求セシコト
ヲ若年寄大岡至膳正ニ建言シテ言フトコト
ヲ可セラレ
二年乙巳十二月二日海上炮術全書ヲ松平大和守
ハ借サル
三年丙午九月十四日十三經注疏史記評林漢書評

宮内省

林後漢書康熙字典ヲ

禁裏へ進献セラルヘキニヨリ御書物師ニ徴入シ属吏

ヲシテ裝飾セシムヘキヨシ命セラル

十二月

禁裏へ進献セラルヘキ御書物裝飾ナリテ呈ス属吏ノ

賜金オノオノ差アリ

二十二月コレヨリサキ命アリテ補寫スルト

コロノ御書物全備セルニヨリ金井伊大夫ニ金一

枚黒野源太左衛門水野新衛門小林半右衛門

ニ各銀五枚ヲ賜ヒソノ勞ヲ賞セラル

オノオノ差アリ

四年丁未十月十二日出雲守献本道藏經ノ蠹敗ヲ

修繕セシ事ヲ主膳正ニ建言ス後云フ所ノ如ク

命セラル属吏ノ事ニ習フ者十一人ヲ撰テ從事

允サレ事ヲ請テ

五年戊申三月七日御書物奉行ノ負文政二年ノ例

ヲ以テ三人ヲ定負トシソノ他ニ命セラル

者アレハ負外トスヘキ旨若年寄遠藤但馬守達

ス

嘉永四年辛亥九月十日貴重ノ書ヲ收貯スル一ノ

御庫樹陰ニテ濕氣多ク蠹敗アラシク患ヒ中央

ナル四ノ御庫ニ移シ換ヘ御庫ノ唱呼ヲ改メ以

降一ノ御庫ヲ四ト唱ヘ四ノ御庫ヲ一ト唱ヘシ

コトヲ主膳正ニ請フテ允サレ

六年癸丑十二月廿七日出雲守献本道藏經修繕成

切ニヨリ其賞トシテ木村董平石井内蔵允ニ各

銀十枚武嶋安左衛門ニ同七枚嶋田帶刀ニ同五枚ヲ賜フ又二九御留守居金井伊太夫ニ卷物五御廣鋪番ノ頭水野新衛門ニ銀十五枚同佐山源右衛門ニ銀二十枚ヲ賜フ此三人ハ前ニ御書物奉行勤務中修繕ノ事ニ與リシニ因テナリ凡者十一人ニ賜金差アリ

安政三年丙辰四月二日水戸中納言殿ニ比榎開略圖ヲ借サレ

四月御文庫收貯ノ審書類ヲ開成所ニ移サレハキ旨但馬守達ス因テ同所ニ移ス

五年戊午五月二十四日重複ノ書十八部駿府學校ニ移サレコシ奉行昌平坂學校ニ移サレ事ヲ建言セシカ林大學頭ノ請ニヨリ駿府ニ移サレシ

(六十二)

ナリ

文久二年癸亥十二月廿一日去月 御奉凡炎上ノ

時焼亡セシ御書籍数部アルヲモテ去ル弘化元

年丙辰ノ例ニヨリ寫本ハ補寫シ刊本ハ書賈ニ

購求セシコトヲ若年寄諏訪因幡守ニ建言シテ

同月廿八日言フトコ口ノ如ク命セラレ屬吏

撰ヒテ從事セシム月俸金等ノ口ト弘化元年丙辰ノ例ニヨルチ百餘譜畧ハ奉行等ノ建言ニ

命アリ御系圖調所ニテ補寫シ

元治元年甲子二月是ヨリ先キ安政六年癸未十月

焼亡ノ書六部アルヲ以テ亦補寫セシコトヲ建

言セシカ藩翰譜ハ補寫シ留書永珍集ハ購求シ

其他ノ書ハ補寫ニ及ハサルハ子若年寄平岡丹

波守 命ヲ傳フ

二月廿二日天保年間重訂御書籍目錄編集、後
 新收ノ御書籍數百部ニ及ヘルヲモテ假ニ續集
 御書籍目錄ヲ編集シテ出納ノ用ヲナセシカイ
 重訂御書籍目錄モ書寫ノ命アルヨリ天
 保七丙申年ヨリ二十八年ノ間新收ノ御書籍數
 百部アルヲ増補シテ一部トナシ簡便ニ從ハレ
 コトヲ因幡守ニ建言シ言フトナシ口ノ如ク
 命セラレ補寫ノ事ニ從事セシテ如ク
 正増補ノ事ニ對シテ奉行等カテ難キ事アルハ初
 林大學頭林式部少輔等ニ議セテ御書籍目録
 増補ノコトヲ議ス

天保七年丙申年三月廿五日
 林式部少輔等ニ議セテ御書籍目録
 増補ノコトヲ議ス



